

みそ汁風呂 杉山亮

むかし1人の旅人が野原の真ん中で道に迷ってしまいました。
こまっていると 遠くに家がいっけん見えたのでとめてもらうことにしました。
おばあさんが出てきて「それはお困りでしょう。さあ、おあがりなさい。
ちょうどお湯がわいたところですよ」といって
旅人をおふろに入れてくれました。
丸くて大きなおふろでした。
旅人があたたまっていると…

おばあさんが来ておふろの中におとうふを入れました。
「なんでそんなことをするのですか」「この方がおいしくなるからね」
また旅人があたたまっていると…
おばあさんが来ておふろの中にあぶらあげを入れました。
「なんでそんなことをするのですか」「この方がおいしくなるからね」
また旅人があたたまっていると…
おばあさんが来ておふろの中にわかめを入れました。
「なんでそんなことをするのですか」「この方がおいしくなるからね」
また旅人があたたまっていると…
おばあさんが来てお風呂の中におみそを入れました。
「なんでそんなことをするのですか」「この方がおいしくなるからね」
それからおばあさんはおふろの湯をちょっとなめて…

「塩がたりないね」と言って旅人の頭の上から塩をふりました。
旅人はだんだんこわくなってきました。
すると おばあさんは「これでよし」と言って 外に向かってどなりました。
「さあ、みんな出ておいで！ごはんだよ！」

するとどうでしょう？
森の中からキツネやタヌキやウサギやシカやイノシシにクマまで現れて…
おふろのふちに集まって中のみそ汁を飲み始めました。
このおばあさんはとてもやさしくて 森の動物たちのために
おいしいみそ汁を作ろうと 大きなおなべでお湯をわかしているところでした。
そこに旅人が来たので さきにおふろの代わりに入れてくれて…
ついでに動物たちのみそ汁も作ったのでした。 おしまい。